

B枝は下垂したりねじれたりしない

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 葉柄上部に腺あり、時に葉状 芽鱗は複数ある 托葉半円形で大きく顕著  
葉(中脈除く)は両面ほぼ無毛か少毛 葉裏の側脈は細くやや微凸-やや平坦

〔マルバヤナギ節《マルバヤナギ亜属》

(SGOHKTY、宮城山形の中部以南、湿地)(高木、葉23広)【01マルバヤナギ=アカメヤナギ】

新葉は初めから無毛 葉は両面無毛

葉表は緑;裏白味あり

葉の中脈は両凸;表は側脈平坦-微凸;裏側脈は細くやや微凸-やや平坦

深い低波鋸歯-深い鋭鋸歯;腺先は長い;腺は赤味帯びる

葉は広楕円-狭長楕円、50-150mm、巾20-60mm

葉柄は無毛-稀に上面有毛;赤味帯びる 葉柄10-18mm 上部に1-3対の腺あり、時に托葉状と成る

托葉は円頭、平腎形、荒い鋭鋸歯、無毛;腺は少数疎らに下部に散在;大きく顕著 遅くまで残る

若葉は赤味帯る

新枝は無毛-稀に微毛 若枝ははじめ微毛、毛はすぐ脱落する

芽鱗は背側で合成し、腹側で合せず重なる 1-3(4)枚ある

(遠目で;新葉の赤色目立つ、広葉、托葉大、葉柄赤味帯びる;山口)

(M68;原始的なアカメヤナギでは托葉は何時でも見られる)

変品種;【ケアカメヤナギv;(S0、四)小枝と葉柄は有毛】

(マルバヤナギは芽鱗が片側で合せず互いに重なりマルバヤナギ亜属とされ、掲載他種は総て芽鱗が片側で離生することなく帽子状となりヤナギ亜属とされる;山口)

D 広葉 葉裏は銀白毛密生、後毛残る;側脈は間隔狭く多数、ほぼゆれず上半で特に強く弓曲直上する  
葉表の細脈は深く凹入せず、表面は皺状にはならない〔ネコヤナギ節2〕

(SGOHKTY、全国普通、川畔溪畔)(低木、葉334広)【32ネコヤナギ】

新葉は両面銀白毛密生;毛は次第に脱落する

葉表は全面白毛多数 ほぼ無毛、中脈は白毛密生 微毛多数

葉裏は銀白毛密生 短毛やや多数、中脈は毛密生 毛やや多数

葉表は毛多く白緑 緑、無艶;裏は白色 粉白-銀緑

葉の中脈は両凸;葉表は側脈凸-やや凹感;葉裏は側脈-細脈ともに凸

;細脈は横走;側脈は間隔狭く多数、ほぼゆれず上半部で特に強く弓曲直上する

弧状鋸歯-ひら凸鋸歯;乾くと縁は狭く裏に強く反る

葉は長楕円形、50-130mm、巾15-30mm;革質

葉柄は毛密生 微毛密生 葉柄5-20mm

托葉は鋭頭卵形;毛密生し縁は一見全縁;成葉にも少し残る 6-10mm

新葉はやや帯淡赤、縁に赤味あり

新枝は毛極密生 本年枝は上部密毛、中部で冬芽付近のみ有毛、後無毛 隆起条あるが余り鋭くない

変品種;【ヒロハネコヤナギv;(TK、栃木、山形)】【フィリネコヤナギcv;(SG、栽培)斑入り品】

【ハイネコヤナギv=ネコシダレcv;(SGH)枝は這う】【タチネコヤナギv;(H)枝は立つ】

(ネコヤナギの葉裏の縮毛とオオキツネヤナギの直毛は区別できる程明確ではない;山口)

(G;枝の這うものをハイネコヤナギという)(H;枝の立つタチネコヤナギvar. adscendens Kimura.

と、枝の這うハイネコヤナギvar. pendula Kimuraとに大別される)

(S;ネコヤナギの項で園芸品種ネコシダレcv. pendulaの別名にハイネコヤナギをあて、

別種のチョウセンネコヤナギS. graciliglans Nakaiの別名にもハイネコヤナギを記す)

(T;変種としてのタチネコヤナギ、ハイネコヤナギの識別は、多形のネコヤナギにあっては

現時点では難しいものであり、更に検討が必要)

(参考)

(ネコヤナギ類似種で以下あるが、DATA少なく花時以外は区別が難しいとおもわれる)

成葉は表無毛;裏は若時毛、後無毛;J葉先はやや尖り基部はやや狭くなる

若枝は伏絹毛あり、後無毛 葉柄6-10mm (SOKT、愛知以西、四)(低木;葉34広)【チョウセンネコヤナギ】